

10 私の成長記

たくさん書くことへの抵抗がまだ強い段階でも、内容によっては書けるという経験をさせ、書くことへの意欲を持たせたい。また、年譜を書くことを、自分自身との対話・家族との対話・級友との対話のきっかけにしたい。ただし、生徒によっては、生い立ちや家族関係などで配慮する必要があるので慎重に扱いたい。後半の社会の出来事を書く活動は、社会科の現代史の学習内容と関連づけられるとよい。

- 1 領域 書くこと
- 2 教材 年譜のモデル（身近な人のもの）
社会科の教科書など社会史の資料
- 3 目標 ・年譜というジャンルの特徴を知り、自分でも書いてみる。
- 4 指導時間 自分の年譜（1時間）＋社会の出来事（1時間）
- 5 指導形態 取り出しクラスで（在籍クラスでも可）
- 6 指導事項 ・言語スキル

領域	指導事項	言語スキル
書くこと	【選材】 ・適切な材料を選ぶ。 【構成】 ・文章の形態に応じた構成 ・記述を工夫する。	・課題にふさわしい材料を集めることができる。 ・適切な材料を選ぶことができる。 ・ジャンルにふさわしい形式で、内容を記述することができる。
言語事項	【話や文章、文】 ・ジャンルによる文章構造、文体などの特性を理解する。	・年譜というジャンルを理解し、端的な表現で分かりやすくまとめることができる。

7 指導計画

	学習活動	伸ばしたい言語スキル	学習支援・指導・学習材
1 次 1 時 間	<p>[自分の年譜を書く]</p> <p>○年譜モデルの提示とその読み取り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当者・担任など身近な人の年譜をプリントで配布（大きく書いたものを黒板に貼る・OHPもよい）。 ・これは何か・誰のものか、あてる（どうしてそう判断したか等も答えさせる）。 ・項目ごとに意味を確認しながら、表現の特徴を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的をもってテキストを眺め、情報を読み取る。 ・ジャンル特有の表現の特徴を知る（辞書形・体言止等）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・モデルを示す（モデルとなる年譜には、生徒が自分の年譜を書くときに使えるような要素をちりばめておく）。 ★語彙表現の提示（表現の骨となる部分を板書しておく）。 <p>例：～で生まれる ～入学・転校 ～へ行く・来る 初めて～する ～と出会う</p>
	<p>○アイデアを出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の年譜を書くという課題を示す。 ・生徒とやりとりしながら、アイデアを出していく（自分にとって大きな出来事、大切な出来事、印象に残っていることなどを話し合う）。 <p>○自分の年譜を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上のやりとりとメモを参考にして、自分の年譜を埋めていく。 <p>【宿題】幼いころなど自分が憶えていないことについて、家族に聞いて書き足して</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教室内のやりとりの中から、必要な材料を集めて、メモを取る（母語でも日本語でも可）。 ・材料を取捨選択する。 ・ジャンルにふさわしい表現を考えて記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの準備（西暦年が書かれたワークシートを準備し、そこに書き込めるようにしておく。メモ欄も作っておく） ・語彙表現の提示 ・個別に対話で引き出す。 ★出来事を思い出すきっかけとなるようなやりとりをして、内容を引き出し文章化する。 ★すで書いてある記述を発展させるようなやりとりをする。 ・生徒の力に合わせて書く文

	くる（これは、できればよい）		章のレベルを調節する。 ★文レベルで事実のみ書く。 ★出来事に自分の感想等を付け加えて文章にする。
2 次 1 時 間	<p>[社会の出来事を書く]</p> <p>○自分が生まれてから現在までの、世の中の大きな出来事を思い出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知っている出来事を出し合う。 ・教師の方から、大きな出来事をカードなどで示して何年だったかなど思い出す。 <p>○社会史を書く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話合いの中で出てきた出来事からいくつか選択して年表に書く。 ・自国の大きな出来事なども、加えられたら書き足す。 ・項目毎に感想を書く。 <p>○できあがったものを見せ合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達同士書いたものを交換させて、校正したり、内容について互いに質問しあう。 ・自分の年譜を修正する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室内のやりとりの中から自分に必要な材料を集めてメモを取る。 ・ジャンルにふさわしい表現を考えて記述する。 ・友達の書いたものについて、分からないところを質問し、直した方がよいところを指摘する。 ・友達の表現を自分の表現の参考にする。 ・友達のアドバイスを取り入れて、自分の表現を練り直す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちの生まれた年から現在までの年を板書しておき、話合いの中で出てきた出来事を板書していく。 ・大きな出来事は事前にカードを作っておいてヒントとして使う。 ・可能であれば、社会科の教科書、インターネットなども活用し、現代史への橋渡しに出来るとよい。 ・語彙表現の提示（感想など） →生徒の書いたもので他の生徒の参考になりそうなものを板書する。 ・生徒同士の関係によっては教師と生徒のやりとりにとどめる。

◆このあとの展開例

年譜にイラストや写真を加えたりして、ビジュアル面を工夫して清書する。

